

事業所名 グループホーム 長寿の郷真備
(クリックすると事業者の情報にリンクします)

日付 平成20年 3月31日

評価機関名 ㈱東京リーガルマインド
(クリックすると評価機関の情報にリンクします)

評価調査員
A:現職 社会福祉法人生活指導員
資格・経験 身体障害者職業生活指導員、社会福祉主事、ホームヘルパー2級、介護支援専門員、難病患者等ホームヘルパー
B:現職 介護支援専門員
資格・経験 介護福祉士、介護支援専門員、介護老人福祉施設(9年)

自主評価結果を見る (事業者の自主評価結果にリンクします)

評価項目の内容を見る (評価項目にリンクします)

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)
(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

外部評価の結果

講評

全体を通して特に良いと思われる点など(記述)

スケジュールや時間にとらわれず、家庭の延長として入居者が自分のペースで自由に過ごせる生活の実現に向け、管理者を始め、職員一同が協働して取り組んでいる。

医療機関との協力体制を図り、平素の往診や受診、健康相談にも乗ってもらえる。体調の変化が見られる時には、直ちに対応してもらえ、入居者・家族共に安心が得られる。

質の高いケアサービスの提供を目指し、職員採用には時間をかけ、認知症介護に関する共通認識を持ち、入居者・家族の状況の変化や要望に柔軟に対応できるように取り組んでいる。看護師の資格を持った職員も、何人が在籍している。

入居者や家族の意向を踏まえ、安心して最期までホームで暮らしてもらえよう「看取り指針」を取り入れ、職員間の連携を図りながら取り組んでいる。

管理者を中心に、職員一人ひとりが向上心を持ち、協働して入居者の介護に取り組んでおり、質の高いケアサービスの提供が実践されている。

特に改善の余地があると思われる点(記述)

改善点として特に指摘すべき点は無い。

開設してまだ1年ほどだが、職員の意識が高く、質の高いケアサービスを提供している。これからも、入居者が地域の中でその人らしく暮らし続けることを支え、運営推進会議を通じて地域に啓発していられることを期待する。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	<p>グループホームとしてめざしているものは何か(記述)</p> <p>入居者の生活歴や趣味等を把握し、本人の潜在能力を引き出すように働きかけ、入居者が生き生きとした生活を営めるよう支援している。</p> <p>入居者が好きな時間に好きな場所で過ごせるよう、ゆとりのある生活空間を作り、家庭的で安らぎのホーム生活の提供を目指している。</p> <p>入居者・家族との信頼関係を大切にし、職員と入居者が馴染みの関係となり、共に暮らす家族として気軽に話し合える環境作りに取り組んでいる。</p> <p>入居者と職員が共に支え合い、共に生きる喜びを分かち合えるホームとなるよう努めている。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	<p>入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)</p> <p>その日、その時の入居者本人の気持ちを尊重し、自分らしい暮らしが営める環境作りを努めている。</p> <p>共用空間をいくつかに分け、一人でゆっくりと自由な時間を過ごせる場所や、2~3人のグループで過ごせる場所を設け、入居者の心の安定を図れる場所作りに取り組んでいる。</p> <p>家庭的な馴染みの関係の中で毎日を過ごしてもらい、自宅と変わらない暮らしの提供に取り組んでいる。</p> <p>入居者一人ひとりの生活リズムや行動パターンを把握し、本人の希望に沿った生活支援を行い、起床から就寝時まで余裕のあるスケジュールで、自主性を尊重した生活の実現に取り組んでいる。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にされた整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物物の支援	○	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	<p>一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)</p> <p>入居者個人の生活歴や経歴を把握し、一人ひとりの潜在能力や意向に添い、自主的に作業や趣味活動が出来るように支援している。また、各自のペースで自由に楽しんでもらい、達成感を味わえるように取り組んでいる。</p> <p>個人を特定する表現は使わず、入居者個人に関する記録や書類等は事務室で保管している。不用になった個人の書類はシュレッダーに掛けて処分し、個人情報情報が漏れることがないよう徹底している。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	災害対策	○	
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
34	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
35	運営推進会議を活かした取組	○	
36	地域との連携と交流促進	○	
37	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	<p>サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)</p> <p>職員は、ホウ・レン・ソウ(報告・連絡・相談)を徹底し、充実したチームワークでケアサービスの提供に取り組み、介護技術のレベルアップにも努めている。</p> <p>入居者の自由な生活を支援するため、入り口は施錠せず、センサーを付けて出入りが分かるようにして入居者の安全を守っている。</p> <p>入居者に関するインシデント・ニアミス・ヒヤリハットを漏らさず記録して報告し、職員間で対策を検討して事故及び問題発生の防止や抑制に努めている。</p>		